竹馬の友に、心の居場所を想う

年明け早々、関東に住む竹馬の友 U 君が、「昨年末、洲本に帰り、久しぶりに第３小学校、洲本高校、三熊山など歩いてきました。それこそ３，４０年ぶりでしょうか。洲高の卒業式の後、皆と三熊山まで上り写真を撮ったことを思い出し感無量でした。」とのメール。

走馬燈のようにあの日のことを思い出した（写真は、今もアルバムに）。式の後、親しいグループで山に向かったが、途中みんなに声をかけ、いつの間にか５０人ぐらいの集団になり、故郷の町、母校を見下ろせる三熊山に登った。カメラを持っていたのは私。

男女共学で、本当にあの「青い山脈」を地で行く高校時代。中間、期末試験の後は、U 君の家がお寺だったのでみんなで本堂でゲームをしたり、フォークダンスをしたり…。先生を誘ってみんなでサイクリングもしたっけなぁ～。大学受験勉強をそっちのけで、ノートに小説（？）を書いて、回覧して感想文をもらったけなぁ～。その感想文をノートに清書してくれた友もいたっけ（そのノートも今も手元に）。乙女（？）たちの恋心（？）の相談にも随分乗ったなぁ～。

振り返れば、私の今の思考、行動の基本パターンは、全てこの時代のままのよう…。

故郷にいる B 君の奥さんの HP を昨日覗くと、U 君のメールにタイミングよく、B 君と散策した折に撮したのであろう三熊山からの市街の写真が数枚掲載されていた。早速、同窓のメル友に、U 君からのメール内容と共に「４０数年前のあの日を思い出して、アクセスしてみて下さいね。」と紹介した。この B 君にも随分輔けられ、B 君と私の名前の一字ずつを取って、私の子どもの名前にした程である。

このグループは殆ど故郷を離れ結婚して関西に在住しているが、私が帰省する折、いつも何人かは大阪空港で出迎えてくれる（まあ、私を出汁にして久しぶりに顔を合わせる機会にしているよう）。

これ程までに、今の私の原点（心の居場所）は、あの高校時代であり、今も当時の精神年齢のままで大人に成り切れないでいる。こうしたことを書いている自体がその証かもね。でも、この歳になりそのことを誇りにさえ思う。

「人は、人生の中で３人の真の友人と思える人に出会えば、恵まれた人生！」と云われているが、竹馬の友に限らず今もって輔けてくれる多くの人に出会っている私は、恵まれ過ぎということかなぁ～。ただただ、友に、感謝、感謝。

（2005 年 1 月 8 日　記）